

寒川町立小・中学校適正化等の検討方法

- 学校の配置を検討するにあたり、様々な配置案が想定されることから、学校配置を配置条件に照らしてパターン化し、比較検討する。
- 比較検討の際は、第1段階として大枠の項目で下記の条件で抽出した複数のパターンを比較し、3～5パターン程度に候補を絞り込み、その後、第2段階として3～5パターンについて、詳細な検討項目において比較検討し、最終的な配置案を絞り込むこととする。

1 第1段階の比較検討表(案)の配置条件

配置パターン（比較検討表横軸）は、主に次の基準により抽出する。

- (1) 人口（児童・生徒）シミュレーションによる推移

※人口減地域を再編の対象とする視点。

- (2) 町内の学校配置のバランス

※通学や地域への影響を考慮し、できる限り地域に偏りの少ない配置とする視点。

2 比較検討表の配置パターンのそれぞれ考え方

配置パターン	人口推移による推移からの視点		配置バランスの視点
	小学校	中学校	
①6校	統合：寒川小学校 12学級を推移するものの、1学級あたりの人数が30人を下回る（2060年で27人を推移）	統合：寒川中学校 12学級を大きく下回る（2030年で7学級、2040年以降は6学級を推移）	・小学校は南中部に2校、2040年以降の推移で比較的人口が多い北部に2校配置。 ・中学校は南部、北部に配置
②6校		統合：寒川東中学校 12学級を大きく下回る（2040年で9学級を推移）	
③6校	統合：一之宮小学校 2060年以降は6学級を推移する。その間も1学級あたりの人数が大きく30人を下回る（2030年に28人で以降も減少を推移）	統合：寒川中学校	・小学校は南部、中部、北部に配置。2040年以降の推移で比較的人口が多い北部に2校配置。 ・中学校は南、北部に配置
④6校		統合：寒川東中学校	
⑤6校	統合：南小学校 18学級を推移するものの、1学級あたりの人数が30人を大きくした回る（2040年で25人を推移）	統合：寒川中学校	
⑥6校		統合：寒川東中学校	

配置 パターン	人口推移による推移からの視点		配置バランスの視点
	小学校	中学校	
⑦5校	統合：一之宮小学校 2060年以降は6学級を推移する。その間も1学級あたりの人数が大きく30人を下回る（2030年に28人で以降も減少を推移）	統合：寒川中学校 12学級を大きく下回る（2030年で7学級、2040年以降は6学級を推移）	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は南部、中部、北部に配置。 ・中学校は南、北部に配置
⑧5校	統合：小谷小学校 12学級を推移。小規模化は比較的緩やかではあるが、1学級あたり30人を下回る（2060年で27人を推移）	統合：寒川東中学校 12学級を大きく下回る（2040年で9学級を推移）	
⑨5校	統合：小谷小学校 統合：南小学校	統合：寒川中学校	
⑩5校	18学級を推移するものの、1学級あたりの人数が30人を大きくした回る（2040年で25人を推移）	統合：寒川東中学校	
⑪5校	統合：寒川小学校 12学級を推移するものの、1学級あたりの人数が30人を下回る（2060年で27人を推移）	統合：寒川中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は2040年以降の推移で比較的人口が多い北部に2校とし、南中部に1校配置 ・中学校は南、北部に配置
⑫5校	統合：一之宮小学校	統合：寒川東中学校	
⑬3校	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中一貫校が想定されるため、既存の小中の種別を考慮せず南、中、北部に配置 		
⑭3校			
⑮3校			
⑯3校			

3 オンライン懇談会の実施

これまでの検討経過や方向性について町民の意見を広く聞くことを目的に、比較検討表を用いてオンライン懇談会を7月末～8月に実施し、懇談会で出された意見も踏まえ、学校適正化等の検討を進めていく予定。